

アルコールの入手しやすさと心臓病に関連あり

アルコール販売規制の群ごとの違いによるアルコール摂取と心臓病との関連について、観察コホート研究を実施し検討した。

米国テキサス州の病院に 2005～2010 年の間に入院した、法的なアルコール販売規制のない郡と規制の厳しい郡に住む 21 歳以上の患者 1,106,968 例を対象に心臓病（心房細動、急性心筋梗塞、うっ血性心不全）との関連を調べた。また、検証解析として、アルコール乱用、アルコール性肝疾患の有病率についても調べた。その結果、規制なし郡の住民のほうが、アルコール乱用およびアルコール性肝疾患がより多くみられた。多変量補正後、心房細動については、規制なし郡の住民のほうが優位に多く、有病率のオッズ比は 1.05 ($p=0.007$) であった。一方、心筋梗塞およびうっ血性心不全は規制なし郡の住民のほうが有意に少なかった（有病率のオッズ比はそれぞれ 0.83、0.87；ともに $p<0.001$ ）。また、規制ありから規制なしに変わった郡においては、アルコール乱用、アルコール性肝疾患、心房細動、うっ血性心不全の発生率が統計学的に有意に高かった。心筋梗塞については差はみられなかった。

したがって、アルコールが入手しやすい地域の住民では心房細動が有意に多く、心筋梗塞およびうっ血性心不全は有意に少ないことが明らかとなった。規制が緩和された地域では、短期間でうっ血性心不全のリスクが増大することも示された。

出典：British Medical Journal. 2016; 353: i2714